

令和 3 年 7 月 16 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2020～2020
課題番号：20H00729
研究課題名 学校における修復的対話の実現(2) 教員の修復的な関わりを実現する学校環境づくり

研究代表者

松山 康成 (MATSUYAMA, YASUNARI)

寝屋川市立西小学校・・・教諭

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 480,000円

研究成果の概要：本研究では、児童生徒に対する教員の修復的な関わりを実現する学校環境を整備していくために、小中学校各1校の学級担任24名に対して修復的アプローチおよびポジティブ行動支援に関する研修等教育的支援の実施した。その結果、対立場面における教員の介入方略の変化、また教員の修復的対話に関する対応スキルの向上、加えてこれら複合的な効果として実施校における対立問題数の減少、および児童生徒の学校適応感の向上が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教員に対する修復的アプローチおよびポジティブ行動支援に関する研修等教育的支援の実施によって、学校内で生じる児童生徒のけんかやいじめなどの対立問題を教員が主体となって修復し合うことができる対応スキルを習得することができた。それにより、児童生徒に対する教員の修復的な関わりを実現する学校環境を整備することができた。

研究分野：教育心理学

キーワード：修復的アプローチ ポジティブ行動支援 修復的対話 対立解消 Good Behavior Ticket 教員研修
いじめ予防

1. 研究の目的

文部科学省(2018)の調査によると、教員による児童生徒に対する体罰の発生件数は 838 件のぼる。また、学校現場における児童生徒の暴力行為の発生件数は 63,325 件のぼり、発生率は全学校数の 31.6%を占める。近年はその割合の増加と低年齢化が問題となっている(文部科学省, 2019)。このように現在の学校現場では、教師と児童生徒、または児童生徒同士の間において、暴力を伴った対立問題が依然発生している状況である。

この問題に対して申請者は、2016 年度から 2018 年度に渡って科学研究費奨励研究の助成を受け、学校全体で取り組むピア・メディエーション(Peer Mediation:対立場面における子ども同士による仲裁活動, Johnson, Johnson, & Dudley, 1992)の実践研究を行い、子ども同士の対話による問題解決を目指した。その結果、児童の学校適応感の向上といじめ・けんかの発生件数の減少が確認された(松山, 投稿中)。しかし子ども同士の対立問題には、教師の問題解決に対する態度が影響することも示唆された。

そこで 2019 年度に再度科学研究費奨励研究の助成を受け、児童生徒の対立問題に対する教員の修復的対話(Restorative Practice, 松山, 2018; Sellman, Cremin & McCluskey, 2013)に着目し、その実現を目指す研修プログラム(以下、プログラムと記す)を開発した。プログラムは英米の学校現場の視察から得た知見に基づいて、傾聴や当事者間の対話による仲裁方法等を含む 6 時間の内容で構成された。試行的に 4 名の学級担任に対してプログラムを実施したところ、教員の公平かつ円滑な問題解決や、その手順に対する児童の受容が示された。また対立問題に対してだけでなく、日ごろの学校生活場面や授業場面においても、教員が児童に対して称賛や受容の態度を示す様子が観察された。

そこで本研究では、児童生徒に対する教員の修復的な関わりを実現する学校環境を整備していくために、小中学校各 1 校の学級担任 24 名に対して修復的アプローチおよびポジティブ行動支援に関する教員研修プログラムを実施する。加えて、教員の修復的な関わりを促進する GBT(Good Behavior Ticket:教員用称賛チケット, 松山・三田地, 2019; Simonsen et al, 2008)を学校に導入し、それらの効果を明らかにする。

2. 研究成果

教員に対する修復的アプローチおよびポジティブ行動支援に関する研修等教育的支援の実施によって、対立場面における教員の介入方略の変化、また教員の修復的対話に関する対応スキルの向上、加えてこれら複合的な効果として実施校における対立問題数の減少、および児童生徒の学校適応感の向上が明らかとなった。また GBT (Figure1) の実施により、教員より児童生徒への称賛が 2512 回実施された。

以上より 本研究で実施した修復的アプローチおよびポジティブ行動支援に関する教員研修、教育的支援によって、学校内で生じる児童生徒のけんかやいじめなどの対立問題を教員および児童生徒が主体となって修復し合うことができる対応スキルを習得することができ、それによって学校における教員および児童生徒による修復的対話は実現することができたと言える。

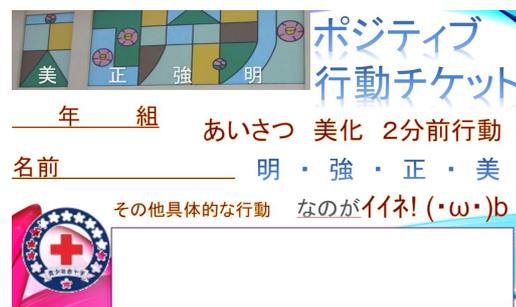


Figure1 Good Behavior Ticket

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 松山康成, 真田穰人, 栗原慎二	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 友人同士の対立場面における介介入行動意図尺度の作成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育心理学研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5926/jjep.69.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松山康成, 栗原慎二	4. 巻 13
2. 論文標題 他者理解を促進する「感情・体調共有ポケットチャート」の開発 : 新型コロナウイルス感染症流行下におけるミスコミュニケーション予防	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習開発学研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内和雄, 富田幸子, 松山康成, 安東茂樹	4. 巻 74
2. 論文標題 ネット依存対策キャンプ参加者のインターネット使用の現状と課題 : M-GTAによる質的調査分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 芦屋大学論叢	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内和雄, 松山康成, 安東茂樹	4. 巻 36
2. 論文標題 インターネット依存問題に対するわが国の学校における教育的支援についての現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育情報研究	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20694/jjsei.36.3_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大対香奈子, 庭山和貴, 田中善大, 松山康成	4. 巻 9
2. 論文標題 学校規模ポジティブ行動支援が教師のバーンアウトおよび効力感に及ぼす効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近畿大学総合社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 植木遥香, 松山康成
2. 発表標題 学級におけるポジティブ行動支援 CWPBS用行动指導計画シートの開発と活用
3. 学会等名 日本学級経営学会第3回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松山康成
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下における子どもたちの実相ー感染予防対策によるミ スコミュニケーション予防のための「感情・体調共有ポケットチャート」の開発からー
3. 学会等名 日本学級経営学会第3回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田賢治, 松山康成
2. 発表標題 学校規模のポジティブ行動支援が中学生の学校適応に与える効果の検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松山康成, 真田穰人, 栗原慎二
2. 発表標題 PPR (Positive Peer Reporting) が友人同士の対立場面における 介入行動に及ぼす影響の検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 半田 健, 若林上総, 松山康成, 横山貢一
2. 発表標題 高等学校におけるスクールワイドPBS導入の成果と課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大対香奈子, 庭山和貴, 田中善大, 松山康成
2. 発表標題 学校規模ポジティブ行動支援が学級の状態および教師のメンタルヘルスに及ぼす効果
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松山康成, 山田賢治
2. 発表標題 中学校における学校規模ポジティブ行動支援 (SWPBS) - 教員の言語賞賛促進を目指した授業研究の取り組み -
3. 学会等名 日本行動分析学会第38回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内和雄, 松山康成, 安東茂樹
2. 発表標題 インターネット依存問題に対するわが国の学校における教育的支援についての現状と課題
3. 学会等名 日本教育情報学会第36回年会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 松山康成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 130
3. 書名 授業力&学級経営力 2021年1月号	

1. 著者名 飯田順子、杉本希映、青山郁子、遠藤寛子、山田賢治、松山康成、川崎知己、山崎沙織	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 172
3. 書名 いじめ予防スキルアップガイド	

1. 著者名 竹内 和雄, ソーシャルメディア研究会, 松山康成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 64
3. 書名 スマホ・ネット基礎・基本ワーク 小学生のうちに身につけたい! コピーして使える!	

1. 著者名 ブランディ・シモンセン、ダイアン・マイヤーズ、宇田光、西口利文、有門秀記、市川哲、川島一晃、高見佐知、福井龍太、松山康成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 ポジティブ生徒指導・予防的学級経営ガイドブック	

1. 著者名 松山康成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 130
3. 書名 社会科教育 2020年 5月号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
栗原 慎二	(KURIHARA SHINJI)